

会 報

No. 30 (1988年 6 月)

目 次

- ◆第11回日本分子生物学会年会のお知らせ…………… 1
- ◆学会費納入についてのお願い…………… 3
- ◆日本分子生物学会入会申込みの手順…………… 3
- ◆会員名簿発行について…………… 3
- ◆学術賞及び研究助成金の本学会推薦について…………… 3
- ◆第2回(1988年度)「東燃研究奨励賞」及び
「協和発酵加藤記念研究奨励賞」について…………… 7
- ◆山田科学振興財団より…………… 7
- ◆第39回タンパク質構造討論会について…………… 9
- ◆国際インターフェロン学会について…………… 10
- ◆核酸化学シンポジウムについて…………… 10
- ◆第2回蛋白工学国際会議について…………… 14
- ◆日本学術会議より…………… 15
- ◆蛋白工学会案内…………… 18

日 本 分 子 生 物 学 会

(THE MOLECULAR BIOLOGY SOCIETY OF JAPAN)

◆第11回日本分子生物学会年会のお知らせ

第11回年会を、1988年12月20日（火）～23日（金）の4日間、日本大学農獣医学部（世田谷校舎）と国立教育会館虎ノ門ホール（千代田区霞ヶ関）で行います。詳細については、後日（11月上旬予定）お送りするプログラムでお知らせします。

なお第二日目に、総会をはさんで特別企画の講演会を虎ノ門ホールで行い、その中に Bernard Moss 博士（NIH）の講演を含むことを予定しております。

準備委員会の構成は下記の通りです。

安藤 忠彦	室岡 治義	大坪 栄一
別府 輝彦	名取 正彦	岡田 吉美
広川 秀夫	名取 俊二	柴田 武彦
池田日出男	西村 暹	内田 久雄
村松 正實	野本 明男	渡辺 公綱
三浦謹一郎（委員長）	大石 道夫	吉田 光昭

講演の申込み

1. 一般講演の演者は、本年度会費既納の本学会会員に限り、1人1題とします。
なお、他の講演の連名者となることは差し支えありません。
2. 一般講演の申込みは、同封の用紙（一般講演申込書、プログラム・人名索引編集用カード、発表要旨）に必要な事項を記入し、書留便で年会係までお送り下さい。
なお、プログラム編成について、希望があれば、“プログラム編集用カード”上欄外にお書き下さい。ただし、御希望に添えないこともあります。

締切り日 1988年9月19日（月）（必着）

〒113 東京都文京区本郷3-23-1 クロセビア本郷2階

（財）日本学会事務センター学術講演会開催業務部内

第11回 日本分子生物学会年会係

電話（03）817-5831

3. 演者の本年度会費納入を確認するために、申込書の所定の欄に、会費払込の際に郵便局が発行する領収書のコピーを貼付してください。

なお、入会手続中の方や、領収書を紛失された方は同欄にその旨御記入下さい。
また、入会申込みをされる方には、入会申込書と会員カードを提出された後に、学会事務センターより会費の請求書が送付されますので、御注意下さい。会費未納の場合は、申込みを受理致しませんので御注意下さい。

4. 演題受領書は、申込用紙到着後、演者の本年度会費納入を確認の上、返送致し

ます。発表の日時についての通知は、会員の方に発送されるプログラムを以って代えさせていただきます。演題は申込の形式および内容に関して不備、あるいは不相当と考えられる場合、不採用のこともありますので御承知下さい。

5. 一般講演の時間は、12分（講演10分、討論2分）の予定です。スライドは、35m/m 判10枚以内とします。会場は8会場の予定です。なお、応募演題数によっては、講演時間を変更することがありますので御了承下さい。

参加申込み及び参加費

1. 年会参加費は、5,000円（ただし、学生4,000円）です。これには講演要旨集1部の代金が含まれています。なお、要旨集のみ希望の方には、会員1,500円（ただし、会員1人につき1部のみ）、非会員3,000円でお頒けします。
2. 本年度は、懇親会を12月21日夕刻に霞ヶ関ビル35階東京会館において予定しております。懇親会費は5,000円です。奮って御参加下さい。
3. 年会参加費、要旨集代金、懇親会費の払込みには、同封の振り替え用紙を御利用ください。

同封の用紙を使用されない場合には、必ず通信欄に、第11回日本分子生物学会年会と記入の上、送金のうちわけ、住所・氏名を御記入の上、下記の郵便振替口座へ御送金下さい。

口座番号 東京9-66455

加入者名 (財) 日本学会事務センター学術講演会係

整理の都合上、申込者1人につき1枚の振替用紙を御使用下さい。

4. 11月10日までに参加費を払い込まれた方には、年会前に講演要旨集を郵送致します。11月11日以降に払い込まれた場合には、年会会場にて要旨集をお渡しすることになりますので御注意下さい。
5. 参加費払込みの領収書は、原則としてお送り致しませんので御了承下さい。念のため、郵便局の領収書を保管しておいて下さい。
6. 当日申し込まれる方は、会場受付で参加費をお支払ください。
7. 年会期間中の宿泊と乗車の手配については、日本交通公社（JTB）外人旅行事業部より御案内致します。（同封）
8. 第11回年会に関する問い合わせ先
本年の年会運営は下記で担当します。この年会についての御意見は下記宛にお願い致します。

(財) 日本学会事務センター内 第11回 日本分子生物学会年会係

◆学会費納入についてのお願い

1. 昭和63年度分および未納分の学会費を4月上旬にお送りした請求書（郵便振替用紙）により下記の通り納入して下さい。なお、学生会費を納入される方は、細則第2条により、在学証明書を日本学会事務センターへ提出して下さい。

記

正会員学会費 2,500円

（但し、在学証明書を提出したときは2,000円）

学会費の納入に際しては年会参加費と混同しないようにお願いします。

2. 年会講演申し込みには、学会費納入控（または領収書）のコピーを添付することが必要です。講演を希望される方は、学会費納入控（または領収書）を保管しておいて下さい。

◆日本分子生物学会入会申込みの手順

日本分子生物学会に入会を希望される方は、書面または電話により下記宛お申し込み下さい。所定の書式をお送り致します。

〒113 東京都文京区弥生2-4-16

（財）日本学会事務センター

日本分子生物学会係

電話 (03) 817-5801

◆会員名簿発行について

日本分子生物学会会則第11条と同細則第7条によって、第6回評議員選挙が来年3月に行なわれます。この選挙のための会員名簿を発行予定ですので住所変更などの異動があった会員は速やかに事務局までお知らせくださるようお願いします。

◆学術賞及び研究助成金の本学会推薦について

学術賞及び研究助成金の本学会よりの推薦は本学会選考委員の意見にしたがって行いますが、そのために必要な資料部数及び期限は次の通りです。

- 1 資料：①本申請に必要な申請資料（オリジナル+募集要項に記載されている部数のコピー）及び論文
②本学会の5名の選考委員用に上記申請資料のコピー5部（論文は不要）
- 2 期限：本申請の概ね1ヶ月前までに〒611 宇治市五ヶ庄，京都大学化学研究所，

高浪満会長まで郵送して下さい。

3 葉書：申込受付確認のため返信用葉書に宛名を書いて同封して下さい。

☞ 資料②を同封せずに応募される人がかなりあります。ご注意ください。

参考までに昨年度本会宛に推薦依頼のあった各種賞・助成などの締切日を御案内致します。御留意の上、適宜お申し込み下さい。なお、東燃研究奨励賞・協和発酵加藤記念研究奨励賞以外は学会推薦の選考のため、この締切りの1ヶ月前に締切りますので御注意下さい。

国際生物学賞	国際生物学賞委員会 03-(263)-1721 102 千代田区麴町5-3-1 ヤマトビル, 日本学術 振興会内	1件	7月1日	賞状, 賞牌 1000万円	生物学の研究において世界的に優れた業績を挙げ, 世界の学術進歩に大きな貢献をした研究者。(授賞分野は各年度毎に決定する)。
東燃研究奨励賞 協和発酵加藤 記念研究奨励賞	(株)東亜燃料工業 (株)協和発酵工業 0774-(32)-8336 611 宇治市五ヶ庄 京大化研分子生物学会 々々長気付	各2件 計4件	8月31日	1件 50万円	日本分子生物学会々員で, 大学及び研究機関において分子生物学の領域で優れた研究を行っている大学院学生及び若手研究者(年令30才程度以下)。
井上 学術賞	(財)井上科学振興財団 03-(477)-2738 150 渋谷区猿楽町11-20	5件以内	9月19日	1件メダル 200万円	自然科学の基礎的研究者で特に顕著な業績をあげた者(但し締切日現在満50歳未満)。
日産学術研究 助成	(財)日産科学振興財団 03-(543)-5597 104 中央区銀座6-17-2	8~10件	9月30日	1件 ㉠2000万円 ㉡300万円	自然科学分野の基礎的な研究に従事し, 1~3年間を要する研究を行おうとする研究者および研究グループで, その研究成果が学術の進歩, 発展に貢献するところが大きいと思われるもの。
東レ科学技術 賞	(財)東レ科学振興会 03-(245)-5919 103 中央区日本橋室町2- 3-16 三井6号館5階	2件前後	11月10日	金メダル 1件 300万円	学術上の業績顕著なもの, 学術上重要な発見をしたもの, 重要な発明により効果の大きいもの, 技術上の重要問題を解決し貢献が大きいもの。
東レ科学技術 研究助成		総額1億 円前後	11月10日	1件1,000 万円程度	科学技術の基礎的な研究に従事し, その研究成果が科学技術の進歩発展に貢献するところが大きいと考えられる研究者またはグループ。
ブレインサイ エンス財団研 究助成	(財)ブレインサイエンス 振興財団 03-(273)-2565 104 中央区八重洲2丁目 6-20	6件	12月26日	1件 100万円	ブレインサイエンス研究分野(脳神経に関する自然科学的研究をすべて含む研究領域)において, 独創的で国際的評価に値する研究者。なるべく若い者, 単独または共同研究も可。
山田科学振興 財団研究援助	(財)山田科学振興財団 06-(758)-1231 内線 428 544 大阪市生野区巽西1- 8-1 ロート製薬(株)内	総額1億 2千万円	3月31日	1件につき 1,000万円 以内	自然科学の基礎的分野における重要かつ独創的な研究に従事する個人またはグループに対し助成。10件内外。

これは昨年度の要項をもとにまとめたものであり, 締切日や受賞対象分野が変更されることもありますので, 申請を希望の方は, 必ず詳細を関係先へ御照会下さい。

各種研究助成などの本学会推薦結果

昭和63年度山田科学振興財団研究援助候補として本学会選考委員の意見に従い下記3件を推薦した。

西 本 毅 治 (九州大学 医学部 教授)

「染色体凝縮の開始を調節する遺伝子機構」

岡 穆 宏 (京都大学 化学研究所 助教授)

「Agrobacterium 菌による植物腫瘍形成の分子機構」

大 島 靖 美 (九州大学 理学部 教授)

「mRNA スプライシングにおける RNA シグナルの分子機構」

東レ科学振興会より静田裕 (高知医科大学医学部教授) 「ADP-リボシル化反応の分子遺伝学的研究」に対して第28回 (昭和62年度) 東レ科学技術研究助成金が送られるとの連絡があった。

分 類

対象別項目

1. 真核生物・細胞
2. 原核生物・細胞
3. 腫瘍ウイルス
4. DNA ウイルス・ファージ
5. RNA ウイルス・ファージ
6. プラスミド
7. トランスポゾン・IS
8. 染色体・クロマチン
9. mRNA・hnRNA
10. tRNA
11. 低分子 RNA
12. リボソーム
13. 構造蛋白質
14. 制御蛋白質
15. 酵 素
16. 細胞膜
17. 受容体・生理活性物質
18. オルガネラ
19. インターフェロン
20. ホルモン・成長因子
21. その他

内容別項目

- A 遺伝子の構造
- B 遺伝子の複製
- C 遺伝情報の転写
- D 遺伝情報の翻訳
- E プロセッシング・修飾
- F 核酸化学
- G 変異・障害と修復
- H 組換え機構
- I 形質転換
- J 遺伝解析
- K 高次構造
- L 分子集合・形態形成
- M 細胞周期・分裂
- N 発生・分化
- O 運 動
- P 神 経
- Q 免 疫
- R 老 化
- S 進 化
- T 癌化とトランスホーメーション
- U 遺伝子工学
- V 細胞工学
- W 蛋白質工学
- X その他

◆第2回(1988年度)「東燃研究奨励賞」及び「協和発酵加藤記念研究奨励賞」について

東亜燃料工業株式会社及び協和発酵工業株式会社より、分子生物学の研究に携わる若手研究者に対して「東燃研究奨励賞」及び「協和発酵加藤記念研究奨励賞」が授与されます。

この件につき、選考を本学会に依頼されましたので、推薦を受けたい方は下記に従って応募してください。

1. 両研究奨励賞応募者の資格
大学及び研究機関において分子生物学の領域で優れた研究を行っている大学院学生及び若手研究者(年齢30才程度以下)。ただし昭和63年4月1日現在本学会々員であること。
2. 授与件数と金額
各賞 2件2名(計4名)、研究奨励金 1名につき50万円
3. 応募方法及び締切日
以下の書類などを昭和63年8月31日必着で、日本分子生物学会「研究奨励賞」係まで郵送する。応募書類などは返却しない。
 - 1) 所定の応募用紙に必要事項を記載したもの(オリジナル1部+本会選考委員会用コピー5部)
 - 2) 論文目録に記載された論文の別刷またはコピー各5部(ただし3編以内)
4. 応募用紙請求先
昭和63年8月19日(必着)までに、宛先を記入した返信用B5判封筒(120円切手を貼ったもの)を同封して 〒113 東京都文京区弥生2-4-16 (財)日本学会事務センター内、日本分子生物学会係まで郵便で請求して下さい。
5. 応募書類送付先
〒611 京都府宇治市五ヶ庄
京都大学化学研究所分子生物学研究部門内
日本分子生物学会「研究奨励賞係」

◆山田科学振興財団より

山田科学振興財団短期間来日援助申込要領

援助の趣旨

本財団は、自然科学の基礎的分野における重要かつ独創的な研究に従事し、高度の研究業績を持つ在外の研究者が、学識を交換して学術の国際交流を促し、又研究を共にして、相互に研究の学際的あるいは国際的進展を図る等を目的として、短期間(通例3カ月以内)来日するための援助を行う。

援助金

- イ. 本年度の総額 派遣援助と併せて6,000万円の予定
- ロ. 渡航費、滞在中の国内旅費、滞在費等

申込手続

- イ. 所定の用紙又はその写しに必要事項を記入する。
- ロ. 招へい状、推せん書、連絡の往復書信、申込者及び来日者の業績一覧表、その他申込者において補足説明を要すると判断される場合は、その説明書を添付する。
- ハ. イ. ロ. 共おのおの3部ずつご送付願います。

記載上の注意

- イ. 黒インクで明瞭に記入して下さい。
- ロ. 紙面不足のときには、同型同大の別紙で追加して下さい。
- ハ. 外国人名は、フルネームを活字体で書き、読みかたをフリガナで示して下さい。邦人名にはフリガナを付けて下さい。
- ニ. 欄外の脚注には記入しないで下さい。

申込期限

1988年11月30日(1989年4月1日~1990年3月31日に来日予定の方)

選考方法

選考委員によって選考のうえ、理事会が決定します。

選考結果の通知

申込者にあてて通知します。

援助金の贈呈

申込者にあてて適時贈呈します。

申込書送付先及び連絡先

財団法人 山田科学振興財団
(Yamada Science Foundation)
〒544 大阪市生野区巽西1丁目8番1号

電話 大阪(06)757局3311(代表)

付

- イ. 援助金の使途を変更するときには、予め本財団の承諾を得て下さい。
- ロ. 申込者及び来日者には、援助による成果について報告書の提出を求めます。
- ハ. 成果について刊行する場合には、本財団の援助による旨書き添え、その別刷2部をお分け下さい。
- ニ. ご提出いただきました申込書は、返却いたしません。

山田科学振興財団派遣援助申込要領

援助の趣旨

本財団は、自然科学の基礎的分野における重要かつ独創的な研究に従事する研究者を国外に派遣し、学識を交換して学術の国際交流を促し、又研究を共にして相互に研究の学際的あるいは国際的進展を図る等のために、次のイ. 及びロ. の援助を行う。

- イ. 高度の研究業績を持つ研究者を、講演、討論等を主目的として、短期間(通例3カ月間以内)派遣するための渡航費の援助
- ロ. 高度の研究活動を実施しつつある新進研究者若干名を、協同研究への直接参加を主目的として、長期間(通例3カ月～1カ年間)派遣するための渡航費、滞在中の国内旅費、滞在費等の援助

援助金

本年度の総額 来日援助と併せて6,000万円の予定

申込手続

所定の用紙又はその写しに必要事項を記入し、次のイ. ロ. の各文書あるいはそれらの写しを添え、おのおの3部ずつご送付願います。

- イ. 短期間派遣にあつては、1. 集会の内容を紹介する文書 例えは、集会のサーキュラー及びプログラム等 2. 講演・発表等の要旨 3. 派遣先と交わした申込者又はこれに代る人からの往復書信等の連絡書信 4. 研究指導者又は所属機関長の推薦書 5. 最近3カ年間の研究報告のリスト
- ロ. 長期間派遣にあつては、1. 直接指導者又は所属機関長による本申込及び本研究に対する評価又は推薦の文書 2. 派遣中の具体的な研究計画書及びそれを本人が英、独あるいは仏訳したもの 3. 受入先の発行した招へい状及び受入受諾を確証する約定書 4. 派遣先と交わした申込者又はこれに代る人からの往復書信等の連絡書信 5. 研究報告のリスト

記載上の注意

- イ. 黒インクで明瞭に記入して下さい。

- ロ. 紙面不足のときには、同型同大の別紙で追加して下さい。
- ハ. 外国人名は、フルネームを活字体で書き、読みかたをフリガナで示して下さい。邦人名にはフリガナを付けて下さい。
- ニ. 欄外の脚注には記入しないで下さい。

申込期限

- イ. 短期間派遣
出発予定日より4カ月以前の月の15日
(例: 10月に出発予定のときは6月15日が申込期限に当たる)
- ロ. 長期間派遣
1988年11月30日(1989年4月1日～1990年3月31日に出発予定の方)

選考方法

選考委員によって選考のうえ、理事会が決定します。

選考結果の通知

申込者にあてて通知します。

援助金の贈呈

申込者にあてて適時贈呈します。

申込書送付先及び連絡先

財団法人 山田科学振興財団

(Yamada Science Foundation)
〒544 大阪市生野区巽西1丁目8番1号
電話 大阪(06)757局3311(代表)

付

イ. 援助金の使途を変更するときには、予め本財団の承諾を得てください。

ロ. 申込者には、援助による成果について報告書の提出を求めます。

ハ. 成果について刊行する場合には、本財団の援助による旨書き添え、その別刷2部をお分け下さい。

ニ. ご提出いただきました申込書は、返却いたしません。

1989年度山田科学振興財団研究援助候補推薦要領

援助の趣旨

本財団は、自然科学の基礎的分野における重要かつ独創的な研究に従事する研究者に対し援助を行う。

援助の件数及び期間

イ. 件数

1件1千万円以内の援助を10件内外

ロ. 期間 1年を原則とします。

推薦方法

イ. 推薦者 本財団が依頼した学(協)会の代表者

ロ. 推薦件数 1推薦者ごとに4件以内

ハ. 推薦手続 推薦者は、以下の書類を整え、ご送付願います。

1. 所定の用紙又はその写しに必要事項を記入したもの 5部

2. 添付書類(ページ・研-5 参照)

記載上の注意

イ. 黒インクで明瞭に記入して下さい。

ロ. 紙面不足のときには、同型同大の別紙で追加して下さい。

ハ. 欄外の脚注には記入しないで下さい。

ニ. 代表研究者は所属する大学(部等)・研究機関等の長から本援助の申込をすることについての承諾を得てください。

推薦期限 本財団へ推薦書が到着する期限は1989年3月31日です。

選考方法 選考委員会において選考のうえ、理事会が決定します。

選考結果の通知 1989年7月末迄に推薦者及び代表研

究者等にあてて通知します。

援助金の贈呈 選考結果の通知後2分割して支給します。

推薦書送付先及び連絡先

財団法人 山田科学振興財団
(Yamada Science Foundation)

〒544 大阪市生野区巽西1丁目8番1号

電話 大阪(06)757局3311(代表)

研究の成果又は会計の報告

援助金の受領者に対して、必要に応じ、研究経過、研究成果又は会計について報告書の提出又は発表を求めます。

付

イ. 援助金の使途を変更する場合には、予め本財団の承諾を得てください。

ロ. 援助金から支出することのできない経費は、文部省科学研究費の場合に準じます。たとえば海外旅費は支出出来ません。

ハ. 研究成果を文書によって発表される際には、本財団(財団法人 山田科学振興財団, Yamada Science Foundation)の援助による旨を記載し、報文の類いにあっては別刷2部、また著書の類いにあってはその1部をご寄贈願います。

ニ. ご提出いただきました推薦書及び添付書類は、お返しいたしません。

◆第39回タンパク質構造討論会について

共 催 日本化学会, 日本生化学会, 日本生物物理学会, 日本薬学会, 日本農芸化学会, 日本分子生物学会
日 時 昭和63年10月7日(金), 8日(土)

会 場 東京都港区東新橋1-1
ヤクルトホール
参加費 1,500円 (予定)
要旨集代 1,500円 (予定)
懇親会費 4,000円 (学生2,000円) (予定)
申し込み及び連絡先 〒113 東京都文京区弥生1-1-1
東京大学農学部
太田 隆 久
電話 03-812-2111 内線5148~5150

◆国際インターフェロン学会について

会 議 名：国際インターフェロン学会第5回年次総会
会 長：川出由己（京都大学ウイルス研究所）
会 期：昭和63年11月14日（月）～18日（金）5日間
会 場：京都パークホテル
（京都市東山区三十三間堂廻り町644-2）
連 絡 先：ISIR'88 事務局(株)インターグループ
飯島，住田
〒530 大阪市北区茶屋町6-23 松柏ビル
(06)-375-9477

International Organizing Committee

Chairman:

Y. Kawade (Kyoto),

Cochairmen:

T. Kishida (Kyoto), S. Kobayashi (Kamakura)
S. Yamazaki (Tokyo), A. Billiau (Leuven)
E. Borden (Madison), E. De. Maeyer (Orsay)
H. Kirchner (Heidelberg)
H. Schellekens (Rijswijk)
W.E. Stewart II (Tampa)
H. Strander (Stockholm), J. Vilcek (New York)

◆核酸化学シンポジウムについて

第15回 核酸化学シンポジウム 予告(3)
と き：昭和63年9月19日（月）～21日（水）
と ころ：グリーンホテル札幌 〒005 札幌市南区川沿4条2丁目
T E L (011)571-3111
[交通] 地下鉄南北線真駒内駅より市営バスまたはタクシー（10分）JR 札幌駅より定鉄バス（30分）
共 催：日本分子生物学会，日本薬学会他
発表時間：ポスター発表（発表5分，討論5分）
口頭発表 （発表12分，討論3分）
参加予約申し込み締切：7月30日（土），予約金5000円
郵便振替で小樽9-4875 第15回核酸化学シンポジウム宛になるべく早くお申し込み下さい。

第1日（9月19日（月））

ポスター発表（8:30～10:00）

- 1-1 *in vitro* DNA 合成における N⁴-アミノシトシンによる複製エラーと変異 松本桂子，別所忠昌，○根岸和雄，早津彦哉（岡山大薬）
- 1-2 真核生物 DNA ポリメラーゼ α に対する光親和性標識試薬の調製 ○伊豆田俊二*，実吉峯郎（北大薬，現*名大医）
- 1-3 アジドチミジン三磷酸類似体による逆転写酵素と DNA ポリメラーゼの活性阻害 小野克彦，○中根英雄，J. Balzarini* E. De Clercq*（愛知がんセ・研*ルーバン大レガ研）
- 1-4 動物界と植物界に強く保存されている PCNA/DNA ポリメラーゼ δ 補助蛋白遺伝子 ○守内哲也，鈴鹿

巖, 大道寺英幸 (東海大医)

- 1-5 修飾 RNA・DNA ハイブリッド基質を用いる大腸菌 RNase H の認識様式の研究 ◦井上英夫, 早瀬要治, 伊藤暁美, 佐々木鋭郎, 小泉 誠, 岩井成憲, 大塚栄子 (北大薬)
- 1-6 RNaseT1 の基質のリン酸基結合部位の構造研究 ◦森岡弘志, 西川 諭, 小田康司, 折田正弥, Jeanne Adiwinata, 上杉晴一, 箱嶋敏雄, 富田研一, 大塚栄子*, 池原森男** (阪大薬 *北大薬 **蛋白質学研)
- 1-7 イミダゾアゼビンスクレオシド類の合成 松田 彰, ◦南川典昭, 上田 亨 (北大薬)
- 1-8 糖部にアリールアルコールシステムを持つヌクレオシドのデオキシ化反応 ◦松田 彰, 岡嶋仁美, 上田 亨 (北大薬)
- 1-9 2',3'-ジデオキシヌクレオシドの新規合成法 白江英之, ◦白神 浩, 入江康夫, 横関健三, 安田直彦 (味の素中央研)
- 1-10 Uridine-substituted analogs of 2-5A: Synthesis and biological activities ◦北出幸夫, David Alster* and Paul F. Torrence* (岐阜薬大 *NIH, U.S.A.)
- 1-11 Coralyne-DNA の分子間相互作用の研究 ◦平良全栄, 本庄美喜男, 松本光弘* (徳島文理大薬, *徳島大教養)
- 1-12 プレオマイシン金属錯体による DNA 切断 ◦杉山 弘, 三輪拓也, 藤田哲弘, 関山隆顕, 田代恭久, 松浦輝男, 斉藤 烈 (京大工)
- 口頭発表 (10:00~11:30)
- 1-13 5-ハロ-1, 3-ジメチルウラシルの芳香族光置換反応における酸の効果 関 與一, ◦松田浩紀 (東日本学園大薬)
- 1-14 電解還元により生成した銅 (I) イオンを用いるチミンの酸素酸化 ◦井藤壮太郎, 佐々木和夫 (広島大工)
- 1-15 2位に電子吸引性基を持つ Chiral Enoate とフランとの Diels-Alder 反応を用いる O-Nucleoside の不斉合成 片桐信弥, ◦赤塚英則, 金子主悦 (東北大薬)
- 1-16 パラジウム触媒を用いるハロゲノヌクレオシド類と有機アルミニウム試薬とのクロスカップリング反応 広田耕作, ◦神辺義剛, 北出幸夫, 牧 敬文 (岐阜薬大)
- 1-17 有機セレン反応試剤を用いるヌクレオシド糖部分の変換反応 ◦原口一広, 田中博道, 早川弘之, 宮坂 貞 (昭和大薬)
- 1-18 ホスホリパーゼDの触媒するアルキルリン酸基転移反応: スクレオシドリソ酸化への新規アプローチ ◦周東 智, 今村茂行, 福川清史, 藤原達郎, 八十昌夫, 上田 亨* (東洋醸造医薬研 *北大薬)
- 特別講演1 (11:30~12:10)
- The synthesis and biological activity of sugar and base-modified nucleosides John A. Secrist III (Southern Research Institute)
- (13:30~15:45)
- 1-19 Cytallene and adenallene allenic derivatives of nucleic acid bases with antiretroviral activity. S. Phadtare and ◦J. Zemlicka, (Michigan Cancer Foundation)
- 1-20 Synthesis and biological activity of certain 3-β-D-ribofuranosyl-1,2,4-triazolo [4,3-b] pyridazines related to formycin prepared via ring closure of pyridazine precursors. Yonghan Kang, Roland K. Robins and ◦Ganapathi R. Revankar, (Nucleic Acid Research Institute)
- 1-21 2アミノグリゼオール酸誘導体 (グアニン誘導体) の合成と PDE 阻害活性 ◦金子正勝, 木村美佐子, 室伏良信, 飯島康輝, 山崎光郎 (三共中央研)
- 1-22 Characterization and synthesis of a new nucleoside from archaeobacterial transfer RNA: 1,0²-dimethyl-inosine ◦J. A. McCloskey, C. G. Edmonds, R. Gupta*, T. Hashizume, C. H. Hocart, K. O. Stetter** University of Utah *Southern Illinois University **University of Regensburg)
- 1-23 Improved high sensitivity detection of 5-methyl-cytosine in DNA based on gas chromatography mass spectrometry. ◦P. F. Crain, E. M. Rachlin, C. Whitehead and J. A. McCloskey (University of Utah)
- 1-24 大腸菌アルギニン tRNA のアンチコドン1字目の修飾ウリジン ◦横山茂之, 坂本健作, 村松知成, 山泉

- 二郎, 西村 遼* 宮澤辰雄 (東大理 *国立がんセ・研)
- 1-25 2-Chlorodeoxyadenosine の殺細胞作用の機構 ◦綿矢有佑, 広田泰秀, 田中章平, 平本(吉岡)晃子, 簗和田潤* 大谷健司* 松田 彰** 上田 亨** (岡山大薬 *林原藤崎細胞センター **北大薬)
- 1-26 損傷をもつ DNA の DNA ポリメラーゼによる読み過ごし ◦別所忠昌, 山下利明, 根岸和雄, 早津彦哉, 山田泰樹* 田中俊樹* 上杉晴一* (岡山大薬 *阪大薬)
- 1-27 プライマー伸長法を使ったアデノウイルス DNA の両末端部分のクローニング ◦村杉 章, 橋本修一 (明治乳業ヘルスサイエンス研)

(16:15~17:30)

- 1-28 DNA を大きさに従って分離する方法・スラロームクロマトグラフィー ◦平林 淳, 笠井献一 (帝京大薬)
- 1-29 核酸塩基を有する HPLC 固定相の合成と核酸化合物の選択的分離 稲木良昭, ◦杉浦嘉彦, 宮本貴志, 北条裕信, 長江 偉, 竹本喜一 (阪大工)
- 1-30 スチレン-無水マレイン酸交互重合体 (SMA) の核酸との相互作用 ◦明石 満, 坂上悦代, 八島栄次, 宮内徳之 (鹿児島大工)
- 1-31 エスペラマイシン/カリケミシン抗腫瘍性抗生物質による選択的 DNA 塩基切断 ◦杉浦幸雄, 高橋有紀, 植沢芳廣, 桑原 淳 (京大化学研)
- 1-32 抗癌抗生物質 Gilvocarcin の DNA に対する作用の解析 ◦山下順範, 中野洋文 (協和発酵東京研)
- 1-33 Neocarzinostatin による DNA 鎖切断反応 ◦河端 浩, 杉山 弘, 田代恭久, 竹下 博, 松浦輝男, 斉藤 烈, 小出芳夫* (京大工 *ポラ化成新薬研)

第2日 (9月20日 (火))

ポスター発表 (8:30~10:00)

- 2-1 窒素架橋ピリミジンフラノサイド類のペペリシツ同族体への変換 ◦源 勝鷹, 藤原範雄, 東希志子, 江口昇次 (名大工)
- 2-2 亜硝酸塩-無水酢酸系を除去試薬として用いたホスホロアミダート法によるオリゴデオキシヌクレオチド類の合成 西野繁栄, 長門康浩, 長谷川義博, 釜池和夫, ◦石戸良治 (東工大理)
- 2-3 DNA 固相合成におけるアリル系保護基の有用性 早川芳宏, ◦若林成知, 野依良治*(名大化測機セ *名大理)
- 2-4 新しいアセタールタイプの保護基を用いたりボオリゴヌクレオチドの固相合成 ◦坂爪 修, 大槻道也, 高久 洋, C. B. Reese* (千葉工大, *ロンドン大キングス校)
- 2-5 G:U 塩基対を含むりボオリゴヌクレオチドの合成と性質 田中俊樹, 折田正弥, ◦坂田武志, 上杉晴一, 池原森男* (阪大薬 *蛋白質工学研)
- 2-6 トリスジアルキルアミノホスフィンを用いるヌクレオシドホスホロビスアミダイトの in situ 合成とそのオリゴヌクレオチドの固相合成への利用 ◦山名一成, 西嶋佳孝, 中野英彦, 三軒 斉 (姫路工大)
- 2-7 簡便な短鎖オリゴリボヌクレオチドの合成 ◦尾崎広明, 矢本修平, 清水剛夫, 本多健一 (京大工)
- 2-8 キャップ構造をもつ RNA の合成 ◦岩瀬礼子, 塚田芳久, 関根光雄, 畑 辻明, 三浦謹一郎* (東工大総合理工 *東大工)
- 2-9 ピロリン酸ジヌクレオシドからの水溶液中でのオリゴヌクレオチドの形成 ◦古田弘幸, 小川洋子, 柳川弘志 (三菱化成生命科学研)
- 2-10 電子スピンを有した DNA プローブの化学合成 牧野圭祐, 村上 章* ◦永原俊治, 中辻由菜, 武内民雄 (京都工芸繊維大繊維 *島津製作所中央研)
- 2-11 遺伝子配列の迅速検出法 ◦山根明男, 中上 智, 川副達郎, 三好健一 (湧永製薬)
- 2-12 ヒトデ, ミトコンドリアゲノム中の tRNA 遺伝子の特異配置と tRNA の特異構造 ◦荒木武義, 浅川修一, 熊沢慶伯, 三浦謹一郎, 渡辺公綱* (東大工 *東工大総合理工)

口頭発表 (10:00~11:45)

- 2-13 大腸菌ゲノムにおける塩基配列の統計的性質 ◦中村岳史, 陶山 明* 和田昭充 (東大理 *長岡技科大)
- 2-14 逆転写酵素およびトランスポザーゼの分子進化 大西耕二 (新潟大理)
- 2-15 アンチコドン・C4N 型塩基群と対応アミノ酸間の特異的相互作用の検出 ◦清水幹夫, 長谷川典巳 (宇宙研)
- 2-16 高度好酸好熱性古細菌のイニシエーター tRNA 遺伝子の構造とその発現 ◦関 誠, 大島泰郎, 三浦謹一郎*, 渡辺公綱** (東工大理 *東大工 **東工大総合理工)
- 2-17 正常および癌組織におけるヒト内在性レトロウイルス遺伝子, ERV3, の発現 ◦加藤宣之, 加藤美枝子*, 下遠野邦忠, Erik Larrson** Maurice Cohen*** (国立がんセ・研 *国立小児病院医療研究センター **スウェーデンウプサラ大 ***米国フレデリックがん研)
- 2-18 エンテロトキシン シグナル配列を用いた, ヒト上皮細胞増殖因子の大腸菌における分泌発現 ◦藤木和子, 福田常彦, 丸木龍二 (武田薬品生物学研)
- 2-19 Improvements in gene synthesis procedures: Synthesis of horseheart cytochrome C gene, Krishna Jayaraman, (Kodak Research Labs)

特別講演 2 (11:45~12:25)

Ribonuclease H genes and proteins ◦Robert J. Crouch and Mitsuhiro Itaya, (NICHD, NIH, USA)

特別講演 3 (19:00~19:40)

Antisense oligonucleoside methylphosphonates: Interaction of psoralen-derivatized oligomers with RNA and DNA Paul S, Miller (Johns Hopkins University)

(19:40~20:40)

- 2-20 A new generation of DNA probes: Oligonucleotides containing a multifunctional 3'-polyamide moiety. ◦Jim Haralambiois, Lucy Duncan, Karin Angus and Geoffrey W. Tregear, (University of Melbourne)
- 2-21 The synthesis and applications of modified oligodeoxyribonucleotides in molecular biology. ◦Brain S, Sproat, Barbro Beijer, Peter Rider and Philippe Neuner, (European Molecular Biology Lab.)
- 2-22 Design and synthesis of fluorescently labeled chain terminators for automated sequencing of DNA. George L, Trainor, ◦Frank W, Hobbs Jr., Anthony J. Cocuzza and Pat N, Confalone, (E. I. du Pont de Nemours and Company)
- 2-23 Phosphorothioate DNA: Synthesis via improved hydrogenphosphonate chemistry Alex Andrus Geraid Zon (Applied Biosystems)

第3日 (9月21日 (水))

口頭発表 (9:00~10:30)

- 3-1 (dA)_n•(dT)_n 配列を持つ DNA の構造の NMR による研究 ◦片平正人, 李 尚錘, 菅田 宏, 京極好正, 藤井 敏* 藤澤理恵* 富田研一* (阪大蛋白研 *阪大薬)
- 3-2 DNA 中における I:T および I:G ミスマッチ塩基対構造 ◦小田康司, 上杉晴一, 池原森男* 川瀬靖聡** 大塚栄子** (阪大薬 *蛋白工学研 **北大薬)
- 3-3 I:A 塩基対を含む DNA 2重らせん構造の分子動力学シミュレーション ◦藤井 敏, 小田康司, 上杉晴一, 大塚栄子* 富田研一 (阪大薬 *北大薬)
- 3-4 大腸菌染色体の複製開始領域 *oriC* の隔解に対する *dam* メチル化の影響 ◦前田好美, 八巻 寛 (東大応微研)
- 3-5 大腸菌プラスミド Col E1 DNA の複製開始に必要な RNA の構造 大森治夫 (京大ウイルス研)

3-6 生理活性を有する新規二本鎖 RNA ◦大木忠明, 石山幸一, 林 理子, 村井正俊, 矢野純一 (日本新薬中央研)

(10:45~12:15)

3-7 原核生物の mRNA の先導配列の合成およびタンパク質合成開始複合体形成効率 ◦石川正英, 平尾一郎, 三浦謹一郎 (東大工)

3-8 リシンA鎖の有する RNA N-グリコシダーゼ活性 ◦遠藤弥重太, 劔 邦夫 (山梨医大)

3-9 RNase P の RNA 成分の二次構造と機能領域の解析 ◦白石英秋* 志村令郎 (京大理 現*基生研)

3-10 真核生物のリボソーム ATPase の性質と機能 ◦鍵山英人, 宮崎正澄 (名大理)

3-11 グループ I self-splicing の反応機構における2つのデアノシンバインディングサイトの役割 ◦井上 丹, P. Menzel and P. S. Kay (The Salk Institute)

3-12 ヒト β -グロビン遺伝子における5'-スプライス信号配列の数量化法による解析・配列の変異とサラセミア 飯田陽一 (北大理)

連絡先: 〒060 札幌市北区北12条西6丁目

北海道大学薬学部 薬品有機化学教室

大塚栄子 TEL (011)716-2111 内線3975, 3976 (井上英夫)

◆第2回蛋白工学国際会議について

蛋白工学 (Protein Engineering) は, バイオサイエンスの最も重要な分野の一つになりつつあります。1987年4月に英国オックスフォード大学で第1回蛋白工学国際会議が開催され世界各国から多くの研究者が出席し, 蛋白工学に関する基礎研究及び応用研究に活発な討論が展開されました。

この度第2回蛋白工学国際会議を1989年8月に神戸国際会議場で, 日本蛋白工学会主催で開催いたす事に決まりました。蛋白工学に関心をお持ちの多くの研究者に参加していただき活発に討論する機会にいたしたいと思えます。

多くの方々の御参加を期待しています。

開催期間: 昭和64年8月20日 (日)~8月25日 (金)

開催場所: 神戸国際会議場 (兵庫県・神戸市)

会議主要テーマ:

1. Theoretical aspects of protein
2. Structural aspects of protein
3. Functional aspects of protein
4. Medical and industrial aspects of protein

ワークショップテーマ:

1. Data base
2. Expression of protein

公用語: 英語

登録料:

	昭和64年5月30日以前	昭和64年5月31日以降
一般参加者	30,000円	40,000円
学 生	10,000円	12,000円

組 織 :

会 長 池原 森男 (蛋白質工学研究所所長・大阪大学名誉教授)
副 会 長 井本 泰治 (九州大学教授)・京極 好正 (大阪大学教授)
事務局長 次田 皓 (東京理科大学教授)
組織委員 内田 駿 (大阪大学教授)・大島 泰郎 (東京工業大学教授)・大塚 栄子 (北海道大学教授)
勝部 幸輝 (大阪大学教授)・郷 信広 (京都大学教授)・崎山 文夫 (大阪大学教授)・
千谷 晃一 (藤田学園保健衛生大学教授)・中西 重忠 (京都大学教授)・別府 輝彦 (東京大
学教授)・三浦謹一郎 (東京大学教授) (50音順)

■第2回案内をご希望の方は下記宛, Request Form をお送り下さい。

〒103 東京都中央区日本橋小伝馬町12番5号 小伝馬町佐工ビル6階
株式会社蛋白質工学研究所 気付日本蛋白質工学会
「Protein Engineering '89 事務局」
T E L : (03)663-6401 (代表)
F A X : (03)663-4260

■昭和63年10月1日以降は下記宛お送り下さい。

〒565 大阪府吹田市古江台6丁目2番1号
株式会社蛋白質工学研究所 気付日本蛋白質工学会
「Protein Engineering '89 事務局」

◆日本学術会議より

日本学術会議だより No. 8 (抜粋)

日本学術会議では、学術の成果を広く国民生活に反映浸透させるという日本学術会議法の主旨に沿うため、公開講演会を開催していますが、今回の「日本学術会議だより」では、昨年11月に開催した2つの公開講演会の講演内容を中心として、本会議の国際的活動の概要等についてお知らせします。

公開講演会「ハイテクと人類の将来」

昭和62年度第1回目の公開講演会は、「ハイテクと人類の将来」という主題の基に、11月21日、京都市の日本イタリア京都会館ホールで開催された。

最初に、近藤次郎本会議会長(経営工学)が、「誰が科学の進歩を止められるか—心臓移植からSDIまで—」と題して、まず、人口の増加によって示される人類の発展が科学の発展に支えられてきたことをあげた。一方では、日航機の墜落事故、TMIやチェルノブイリの原発事故、スペースシャトル爆発事故などにより多くの人命が失われたことを述べた。心臓移植などの生命科学の進歩が高度医療技術の倫理問題に関心を集め、SDI構想が宇宙の平和利用に新しい問題を提起しているなどを指摘した。そして、これからの科学・技術の発達には、人文・社会科学と自然科学の調和を図

ることが大切であることを強調した。

次いで、関寛治本会議第2部会員(政治学、立命館大学教授)は、「ハイテク時代の学術ネットワークと平和の条件」と題して、新しい先端的な科学技術が実際に応用可能となってきたことに伴い、ハイテクを駆使したC&Cというネットワークが世界的に可能となり、複雑なネットワークから成る世界政治の構造に大きな変化をもたらしつつあることを指摘した。そして、このような状況を踏まえて、国家という壁を解決していかなくてはならないこと、そのためには、トロンの発想のコンピュータシステムを基礎として学術情報システムのより自由な地球的規模の再編成を行えるようにすること、人間間ネットワークの高次化による国の外交政策の在り方の再検討をすることも重要であることを強調した。

最後に、島袋嘉昌本会議第3部会員(経営学、東洋大学教授)は、「人間と高度科学技術との調和」と題して、「高度科学技術の粋を集めた航空機」の事故を取り上げて、その大部分は人為ミスであることを指摘し、このような事故は、人間と高度科学技術の接点で、何らかのそごが生じて起きるものであることを指摘した。そして、現在人間と高度科学技術とをいかにマネージ

していくつかについて、十分な科学的分析と管理的配慮がなされていない。その最大の問題点は生命尊厳を基にした経営哲学の欠落であると指摘した上で、人間と高度科学技術との調和を可能にする総合科学の重要性を強調した。

公開講演会「情報化と国際化」

昭和62年度第2回の公開講演会「情報化と国際化」が、11月28日、本会議講堂で開催され、各界各層より多数が聴講し、成功裡に終了した。

講演は、3人の演者による講演とそれに関連する質疑応答が行われた。

まず最初に、猪瀬博本会議第5部会員（情報工学、学術情報センター所長）が「情報技術と国際化」と題して、情報技術の急速な発展にふれ、歴史上未曾有の規模で産業構造転換を促し、世界の人々に革命的ともいえる意思疎通の手段を提供した情報技術は、また一方で情報の氾濫を引き起こし、貿易摩擦、雇用不安、情報の地域間格差、文化の画一化など多様な国際問題を発生させてもいると指摘した。コミュニケーションは、情報提供者と情報の受け手とのバランスが何より不可欠なであるとし、それらを1) 情報流通の問題、2) 先端技術開発の問題、3) 雇用の問題、4) 文化の問題に分類し、スライドを交えて意見を述べた。

次に、竹内啓第3部会員（経済統計学、東京大学教授）が「情報化時代の国際政治・経済」と題して、国際的な情報流通を取り上げ、ますます大量かつ急速に行われるようになる、その影響として経済・文化等が国際化から世界化・地球化（グローバル化）される傾向にある今日、一方では政治における国家主義、民族主義との矛盾が激化するであろうと指摘した。これからの国際的力関係は、情報力の量が大きく関係してくると思われることを述べた。情報化は世界を一つにする基盤を与えることができるが、それには各国の協調が不可欠の条件であるとし、21世紀中頃には国境・国籍を意識しない望ましい時代がくるようになるかもしれない、と結んだ。

最後に、宇野政雄第3部会員（商学、早稲田大学教授）が、「企業の情報化と国際化」と題して、企業も個人と同様に真剣に情報化と国際化について考え、生き残るために取り組んでいることを、身近なコンビニエンス・ストアやクレジット（信販）会社を例にとり、具体的にわかりやすく解説した。昨今 C.I.（コーポレートアイデンティティ）戦略が企業の経営戦略としてクローズアップされているが、どういふ情報（ハード）

を、どのように活用（ソフト）するのが、一番の問題であると力説した。

（なお、これらの講演会の講演内容は、日学双書として、（財）日本学術協力財団から出版されます。）

二国間学術交流

本会議は、諸外国における学術研究の動向及び現状を把握するとともに、学術研究に関する基本的、全般的事項について相手国の科学者等と意見を交換することにより、我が国の学術研究の総合的な発展に寄与することを目的として、昭和58年度から毎年2か国へ代表団を派遣している。今までに、アメリカ合衆国、マレーシア、ドイツ連邦共和国、インドネシア共和国、スウェーデン王国、タイ王国、フランス共和国、大韓民国へ派遣したが、今年度は、11月7日から15日まで連合王国へ、12月1日から5日までシンガポール共和国へ、それぞれ会長または副会長以下7名の会員を派遣した。

日本学術会議第13期は、「学術研究の国際性重視と国際的視野の確立」をその活動の重要な柱の一つとしており、今回もその観点から交流を行った。

連合王国については、「連合王国の経済停滞とその対策」「産業革命以降の連合王国における基礎科学及び応用科学の発展」「日英のアカデミックな協力はどうか」の三つのテーマについて、行政機関、研究所、大学等を訪問し、情報交換を行い、さらにその方面の科学者と意見交換会を行った。

シンガポールについては、「今後のアジア・太平洋圏の科学協力における日本の役割」をテーマに行政機関、研究所、大学等を訪問し、情報交換を行い、さらにその方面の科学者と意見交換会を行った。

今回の成果は、代表団訪問時だけのものではなく、訪問国との今後の継続的な交流、緊密な情報・資料の交換、日本学術会議と訪問国関係各諸機関との相互理解の促進・緊密化等の形で表れてくるものであり、これらの成果は、我が国の学術研究の国際交流・協力の基本姿勢及びその抜本的充実方策を検討する場合の大きな資料として役立つものと期待される。

生命科学と生命工学特別委員会中間報告

一生命科学の研究と教育の推進方策について一

現在、生命科学に対する関心は社会全体に広がっており、生命科学の推進のためのいろいろな活動が国、民間、学界などそれぞれの立場で行われつつある。このような時に、生命科学と生命工学特別委員会として

は、広い視野に立って学問分野を横断的にとらえて、生命科学の推進方策について以下要約のごとき具体的提言を行い、各方面の意見を聴取することは非常に重要であり、時機を得たものであると考える。

〔要約〕

広い視野から生命科学の研究と教育の推進の方策を討議し、提案し、時に応じて企画、実行する組織として、生命科学研究教育推進会議（仮称）を設置すること。そして、この会議の事業の一つとして、まず生命科学研修コース開催のための機構をつくり、各種の研修コースを実施することが緊急に必要である。

登録学術研究団体等との連絡協議会

本会議は、本会議活動の周知を図り、学術研究団体との連絡・協力関係を維持・強化するための活動の一

日本学術会議だより No. 9（抜粋）

日本学術会議は、4月20日から4月22日まで第104回総会を開催し、「国際間の科学技術協力と研究の自由について(声明)」を決議するとともに、4件の勧告・要望・見解を採択しました。

大学等における学術諸分野の研究情報活動の推進について（要望）

高度情報化社会に即応した新しい手段により、学術研究の基礎的情報・資料を整備すること、情報・資料や研究成果を全国的・国際的に流通させることが、学術のすべての分野を通じて強く要望されている。これらの推進のために、近年、文献資料センター、データ資料センターの整備、「学術情報センター」の設立、データベース作成の支援などが行われ、その環境はかなり整備されてきた。

これらの環境を基盤として、それを強力に補完するものこそ、個々の専門分野での研究情報活動である。このため、国公立大学等で、国際協力を念頭に置きつつ、それぞれ特色を持つ領域を単位として、情報・資料を整備し、その分野での研究成果を提供する組織の設置と方法の推進とともに、「学術情報センター」のネット・ワークなどを通じて、全国的・国際的に流通させる体制の強化が急務であるとする。このために、下記のような体制の確立を要望する。

(1) 専門分野別に研究情報センターを設置すること。

環である登録学術研究団体等との連絡協議会の第2回目を、12月7日に、東日本の団体を対象にして本会議講堂で、12月11日に、西日本の団体を対象にして大阪ガーデンパレスで、それぞれ開催した。

今回の連絡協議会では、最初に、近藤次郎会長から、本会議の職務・権限や組織・構成などの説明の後、最近の活動として、去る10月の第103回総会で採択された勧告等の内容紹介などが行われた。

続いて、事務局から、現在進められている第14期会員推薦手続について、特に近々各登録学術研究団体に依頼される予定の「会員の候補者」の選定と「推薦人（予備者を含む）」の指名に関する届出の手続を中心に詳しい説明が行われた。この説明については、多くの出席者からその手続の詳細をたずねる質問が出された。

なお、出席者数は、12月7日は、339団体339名、12月11日は、58団体58名であった。

(2) 大学等の既存の諸機関（文献資料センター等）における研究情報活動を推進すること。(3) 個別的なデータベース・知識ベースの作成と新規のデータ処理方法の開発を助成すること。(4) 「学術情報センター」の拡充を図ること。(5) 大学等とそれ以外の機関（官公庁、学・協会を含む）との情報の流通を円滑化すること。

我が国の国際学術交流の在り方についての日本学術会議の見解

学術の問題は国際的視点を外して考えることはできない。日本学術会議は、昭和36年10月27日第34回総会において「科学の国際協力についての日本学術会議の見解」を採択し、科学の国際協力は、(1) 平和への貢献を目的とすべきこと、(2) 全世界的であるべきこと、(3) 自主性を重んずべきこと、(4) 科学者間で対等に行われるべきこと、(5) 成果は公開されるべきことの5原則を明らかにした。この見解は、国際学術交流における一般原則を示すもので、今日においても尊重されるべきものである。

この見解表明から四半世紀を経て、国際学術交流を取り巻く環境の変化は急速に進んでいる。その変化の速度は今後更に顕著になると思われる。しかし、このような著しい変化の中で、国際学術交流に対する我が国の人的、制度的、財政的対応は必ずしも満足すべき状態にはない。今回の見解は、こうした状況を踏まえ、

我が国の国際学術交流は今後一層積極的かつ能動的な姿勢へ転換させることの重要性を指摘し、次のとおり、人の問題、国際交流の進め方の問題、組織の問題の三つの面で、新しい姿勢に見合った改革を進めて行くことの必要性を表明している。

(1) 人的交流の促進と大学・研究機関の国際的開放

(2) 学術研究活動の世界的展開

- ① 国際的学術機関の活動への積極的参加
- ② 国際的研究プロジェクトの策定と遂行
- ③ 二国間・地域間学術交流

(3) 国際学術ネットワークの確立

◆蛋白工学会案内

蛋白工学会第1回年会を本年12月19日(月)、東京大学本郷キャンパス内で開く予定です。学会入会申込みは、〒278 千葉県野田市山崎2641、東京理科大学理学部、次田 皓^{アキラ}(TEL 0471-24-1501)宛にお願いいたします。